

「錦江町と島津家の軌跡を歩む」

今月は、「三国名勝図会」「大根占町誌」「大根占町の文化財」からの情報をもとに制作しました。

今月は、島津家の軌跡について、三国名勝図会から池田地区の旗山神社周辺を歩んでみたいと思います。

池田地区にある旗山神社本殿に南北2座並び、南位を旗山大明神、北位を狩長大明神があり、狩長神社の祭神は不明ですが旗山神社の祭神は古くから旗山大明神と呼ばれていました。境内は2・7・4アールあり、昔はこの地を祇寝院二十枝山と呼んでいたそうですが、島津氏が朝鮮征伐や琉球出兵の時、この山の竹を旗竿としたため旗山と呼ぶようになったと伝えられています。

朝鮮出兵は文禄元年（1592年）豊臣秀吉が朝鮮出兵を決意し全国に命を下し、島津義弘率いる島津軍は泗川の戦い（1598年）で勝利し、日本史でも伝説的な戦いとして記述されています。この戦いで旗竿として切り出されたのが

池田地区の竹でした。

この旗山神社の竹は島津忠国が肥後国志目岐岳から良質の竹を移植し、薩藩に於ける戦争用の旗竿として切り出し、楠の樹に立てかけ、祈願したと記述されています。

また、島津家（島津光久）は竹だけではなく良質のはぜの木を大根占や池田・宿利原や県内各地に植えさせようです。

良質のはぜの木からろうそくの原料にもなるろう

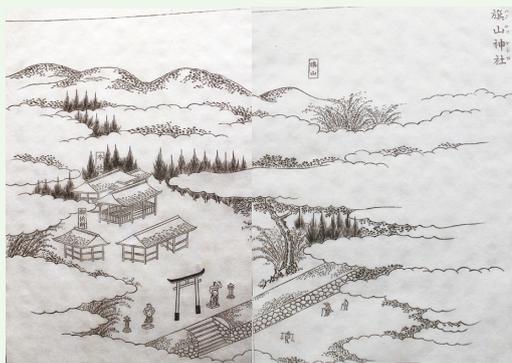
を製することを奨励したのには、禰寝重長と記述されています。また今垂ろう所の址といわれる場所が神川地区の神川上付近にあったとされています。

現在、鹿児島県は新幹線開通や佐多岬の無料に合わせ大隅半島へ力を入れていますが、島津氏もこの頃（島津貞久）大隅半島へ力を入れ、開発を行っていたようです。

島津家が手掛けた三国名勝図会や記述などが、花瀬公園お茶亭跡や旗山神社、雄川の滝展望所に看板として掲げていますので現在の風景と見くらべながら想像してみても楽しいかもしれません。

次回も島津家が手掛けた三国名勝図会や記述などから錦江町と島津家の関わりについて歩んでみたいと思います。

旗山神社



三国名勝図会



旗山神社と大イチョウ



昭和39年頃の神舞の様子

錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げていきたいと思ひます。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げていきたいと思ひます。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査にいきたいと思ひますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032